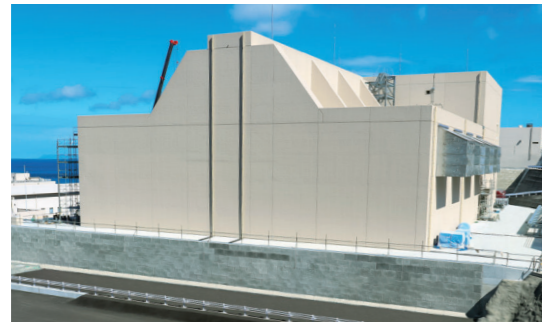


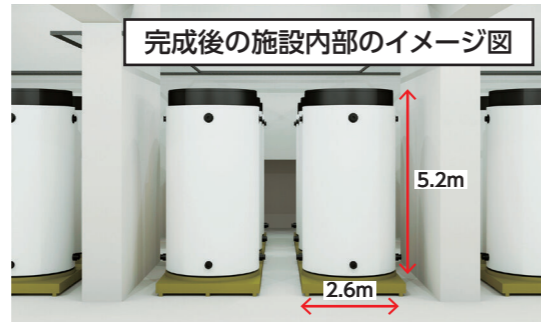
伊方発電所における工事等の状況について

使用済燃料乾式貯蔵施設

伊方発電所で発生した使用済燃料を一時的に貯蔵する「乾式貯蔵施設」の設置工事を2021年11月より開始し、これまで順調に進捗しています。2025年7月の運用開始を目指し、引き続き、安全を最優先に工事を進めてまいります。



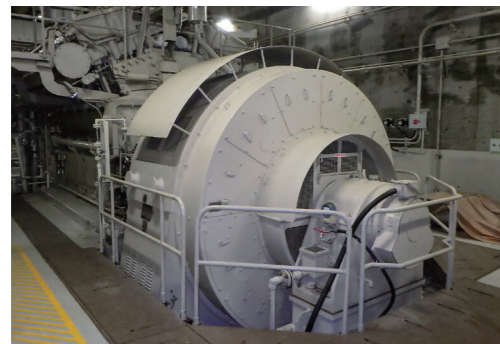
壁面工事を終え、機械・電気設備の設置作業を実施中
(2024年8月末現在)



完成後の施設内部のイメージ図
使用済燃料は金属製の頑丈な容器(乾式キャスク)に収納

1、2号機の廃止措置

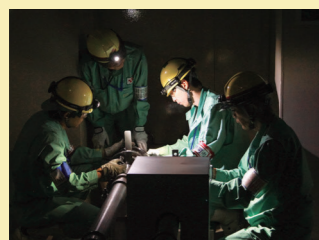
全体工程を4段階に区分し、約40年間かけて作業を実施する計画で、現在、第1段階として、設備の汚染状況の調査や、放射線管理を必要としない区域の設備を解体、撤去しています。引き続き、安全を最優先に着実に進めてまいります。



非常用ディーゼル発電機を撤去(1号機)



伊方発電所の安全への取り組みを動画でご紹介しています。



暗所での配管接続訓練



中型ポンプ車の操作訓練



放射線のモニタリング



機器の日常点検

地域のケーブルテレビ局での放送
(八西CATV、ケーブルネットワーク西瀬戸、西予CATV)

四国電力
ホームページ



【お問い合わせ先】(平日9時~17時)

四国電力株式会社 原子力本部 エネルギー広報グループ TEL:089-946-9730
伊方発電所 広報課 TEL:0894-39-1701

2024.10作成

地域の皆さまへ

皆さまには、日頃より四国電力の事業運営にご高配を賜り、誠にありがとうございます。本年6月に社長に就任いたしました宮本でございます。

四国の皆さまに安定的に電気をお届けし、地域に貢献していくこと。

この変わることはない当社の使命をこれからも果たしていくため、私どもは、伊方発電所3号機の安全対策に終わりはなく、肝に銘じ、発電所の安全性向上に不断の努力を積み重ね、安全・安定運転を継続してまいります。

そして、今後も発電所に関する情報を迅速かつ丁寧に発信していくことで、皆さまからご信頼いただける伊方発電所を目指してまいります。

四国電力株式会社 取締役社長
社長執行役員

宮本 喜弘



四国電力では、伊方発電所に対する皆さまのご不安や疑問の声に少しでもお応えできるよう、社員が各ご家庭を訪問し、直接ご意見・ご質問をお伺いする活動を継続的に行っております。

本日は、伊方発電所の現状に関するリーフレットをお届けにまいりました。

リーフレットの内容に関するものをはじめ、伊方発電所について日頃からお気づきの点やご質問などがございましたら、

- ・同封の郵便ハガキ
- ・電子メール(専用メールアドレス: chiiki-voice@yonden.co.jp)
- ・お電話 (専用フリーダイヤル: 0120-459-796
(12月20日(金)まで*の9時~17時 *12月1日~20日は平日のみ))



でお寄せいただくと幸いです。



四国電力株式会社

伊方発電所の安全性向上に向けた取り組み ～一歩一歩、着実に～



多田 所長

本年12月、伊方発電所3号機は運転開始から30年を迎えます。これもひとえに、地域の皆さまのご理解とご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

伊方発電所では、これからも3号機の安全・安定運転を継続していくため、法令に基づく設備の技術的評価を適切に行うことはもとより、長い歩みの中で育んできた「安全を最優先にする文化」とこれまで培ってきた「技術力」を次の世代にも確実に引き継いでいきたいと考えております。

こうした原子力事業者としての責任と使命をしっかりと果たしながら、私どもは、これからも地域の一人として、皆さまとともに歩んでまいります。

伊方発電所3号機のあゆみ

- 1980年 5月 伊方町・愛媛県へ3号機増設を申し入れ
- 1983年 3月 電源開発調整審議会で承認
- 1985年 4月 伊方町・愛媛県より3号機増設についての事前のご了解(安全協定の改定) ①
- 1986年 5月 原子炉設置変更許可を取得
- 1986年11月 建設工事を開始 ②
- 1994年 2月 初臨界 ③
- 1994年12月 営業運転開始
- 2010年 3月 プルサーマルによる発電開始
- 2011年 3月 東日本大震災発生
- 4月 第13回定期検査により停止
- 2015年 7月 国が新規制基準に適合していることを判断
- 2015年10月 伊方町・愛媛県が再稼働をご了解 ④
- 2016年 9月 約5年ぶりに通常運転再開



① 伊方町・愛媛県より事前のご了解



② 3号機建設工事



③ 初臨界



④ 愛媛県より了解文書受領

安全文化の醸成と技術継承

安全文化を育てていくために

- ▶▶ 当社経営層・幹部と発電所員との双方向コミュニケーションの充実を図り、安全意識の共有に向けた意見交換の場を定期的に設けています。
- ▶▶ 日々の業務の中での軽微な気づきや改善提案を幅広く収集するしくみを構築し、改善することにより、トラブルの未然防止に努めています。



経営層・幹部と発電所員との意見交換

技術力を維持し、高めていくために

- ▶▶ 日々のパトロールや点検作業で、ベテラン社員が若手社員と一緒に行動し、知見やノウハウを伝えるなど、技術継承に努めています。
- ▶▶ 原子力保安研修所(松山市)で実際の発電所と同じ機器類を用いながら、さまざまな訓練を継続的に行っています。



原子力保安研修所での訓練

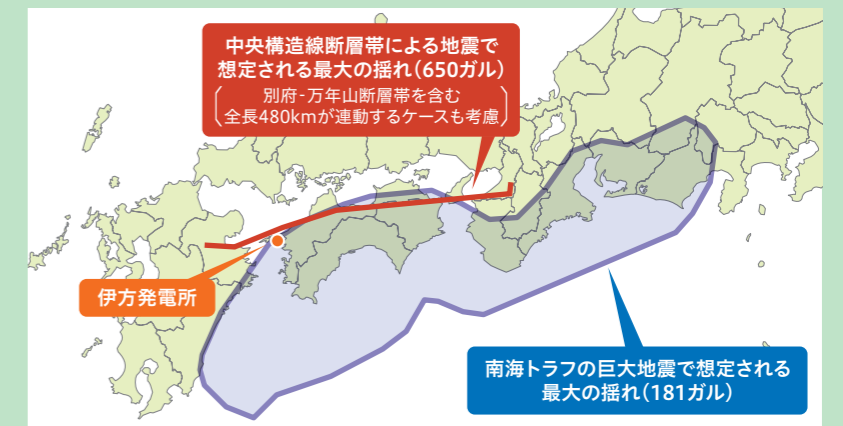
本年、伊方発電所周辺で発生した地震について

- ▶▶ 本年4月に発生した豊後水道地震では、愛媛県愛南町で震度6弱、伊方町で震度4、伊方発電所で最大38ガルを観測しました。この地震の影響で、3号機の設備の一部が不調となり発電機出力が約2%低下しましたが、プラントの安全機能(止める、冷やす、閉じ込める)に影響を与えるものではなく、運転を継続しました。
- ▶▶ また、8月に発生した日向灘を震源とする地震では、初めて南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表されました。愛媛県内は最大で震度4を観測しましたが、強固な岩盤上に設置されている伊方発電所3号機では揺れを感知しませんでした。

伊方発電所の安全対策について

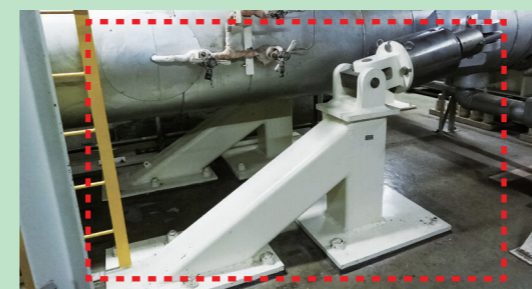
伊方発電所では、南海トラフ地震をはじめとした巨大地震を想定して、基準地震動を設定するとともに、さまざまな安全対策を行っています。

- ▶▶ 最も影響があると想定される中央構造線断層帯による地震について、最大規模の揺れを基準地震動(650ガル)として設定し、この基準地震動を基に、耐震性を確保しています。
- ▶▶ 南海トラフ地震は、震源域が地下深くに位置していることなどから中央構造線断層帯による地震よりも影響は小さく、地震動は181ガルと評価しています。

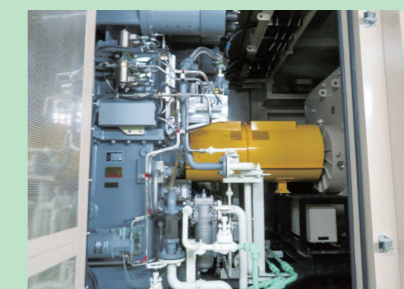


◆また、当社独自の対策として安全上重要な機器などについて、概ね1,000ガルの揺れに耐えられることを確認しています。

◆原子炉の冷却などに使用する非常用電源として、既設のディーゼル発電機に加え、非常用ガスタービン発電機や空冷式非常用発電装置の設置、外部電源強化のための配電線の追加などを行っています。



配管のサポート補強



非常用ガスタービン発電機



空冷式非常用発電装置

高経年化への取り組み

- ▶▶ 伊方発電所では、運転開始から30年を迎える3号機について、法令に基づき、経年劣化に関する技術的な評価(=高経年化技術評価)を行い、その評価結果をもとに、今後10年間に実施すべき追加的な対策を策定しました。引き続き、高経年化に係る国の審査や県の委員会等に適切に対応していくとともに、必要な対策を行うことで、一層の安全性の向上に努めてまいります。



国による発電所での審査の様子